

Face to Face

TICO は徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力 NPO 法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター No. 53 2019 年 1 月号

Ms.Naomi Kmwenda を忘れない
ザンビア心臓血管外科技術移転事業
カンボジア救急医療処置技術普及事業
TICO YOUTH カンボジア・スタディーツアー
ケア（CARE）の心で支援を！
バザーで TICO 支援！

☞p. 1
☞p. 2
☞p. 3
☞p. 4
☞p. 5
☞p. 6



Ms.Naomi Kmwenda を忘れない

TICO 代表 吉田 修

Ms. Naomi Kmwenda（ナオミおばさん）が亡くなりました。

TICO の外国での最初の活動であるザンビア首都ルサカ、ンゴンベ貧困地区の栄養改善事業に 1998 年から関わり、以後今日までずっとその中心で活動されてきた方です。

「子供の命を救いたい」という気持ちから手探りで始めた事業でした。栄養改善のための教育、調理教室、野菜作り、養鶏などから始まりました。

当時のンゴンベ地区は本当に劣悪な状況でアフリカのスラムの典型のような所でした。10 万人ほどが暮らし、上水道は 7 箇所にしかなく、衛生的なトイレや下水はありませんでした。露天マーケットで売られている肉には真っ黒にハエがたかっていたのを忘れられません。貧困、失業、HIV、栄養失調、不衛生、犯罪、暴力、教育を受けられない、すべての問題がそこにはありました。

そんな中で事業を始めた当初に幸運にも出会えたのがナオミおばさん（栄養士、実はマラウイ人）でした。シングルマザー達（当時 face to face ではマミーズと呼んでいました）に栄養改善教室を実施していただき、その後彼女の提案で裁縫教室も始めました。マミーズは裁縫さえしたことがなかったのです。それでも彼女達のがんばりで、数ヶ月後には裁縫で収入を得られるようにな

るマミーズも現れました。すると今度は仕事をするために子供たちを預かってほしいという要望があり保育所、そして小学校まで発展しました。この事業は現在も立派に、しかも自立的に運営されています。

20 年間の事業の常に中心にいて、地域の弱い立場の母親と子供たちに愛情を注ぎ続けてこられたのがナオミおばさんでした。地域に栄養状態の悪い子供を見つけると食事を届け、保育所に連れてくるように促し、生活を支えていました。

数年前、糖尿病を煩い脳梗塞を発症、リハビリの末、奇跡の復帰をはたされましたが、今度は膵臓癌が見つかり、手術、化学療法を受けられました。

私が 9 月にお見舞いに行った時はかなり衰弱された様子でした。それが最後の面会となりました。

TICO にとって彼女は、同じ志を持って、心から信頼できる、頼れる、尊敬できる人でした。彼女のおかげで我々はその後のザンビアでの活動に希望を見だし、続けてやって来られたと思います。私たちはナオミおばさんのことを決して忘れない。

*彼女が膵臓癌の治療を受けたのは、南アフリカとインドです。ザンビア国立癌病院は、まだまだ信頼度が低いようです。心臓外科以外にも医療のレベルアップが必要な分野はまだまだあります。

心臓手術で命を救え！手術環境を整え、現地医師が命をつなぐ。

ザンビア心臓血管外科技術移転事業

ザンビア大学付属教育病院 University Teaching Hospital

助成金決定の報告と今後の活動

心臓血管外科医 Dr.松村 武史

この度、私たちのプロジェクトが「風に立つライオン基金」から助成金を頂くことになり、2018年11月16日に助成金決定通知をいただきました。

「風に立つライオン基金」は、2015年に歌手のさだまさしさんが設立した、国内外の僻地医療や大規模災害の復旧現場などにおいて奉仕活動をする個人や団体に対し、物心両面からの支援を提供するために設置された基金です。このニュースにTICOスタッフ、プロジェクトメンバーのみんなで非常に喜んでおり、次回活動に対する士気もあがっています。助成金はザンビアの患者さんを治療するため、また、医療従事者の教育のために大切にに使わせていただきます。

今年の1月から2月にかけて、ザンビア UTH において腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術や閉塞性動脈硬化症に対する人工血管バイパス術などの血管外科の手術が行う予定です。それにあたり、現地と連絡を取りなが患者さんの選定、スタッフのスケ

ジュール調整、物品の準備を行っています。今回は、ザンビア医師たちの苦手分野である、診断をして手術を必要とする患者さんを決定するという、患者さんの選定の克服を課題としています。なんとか克服出来る様にサポートし、実行したいと思っています。まずは練習として心臓以外での血管手術を予定していますが、ザンビア人が行う初めての血管手術であり、血管外科という新しい分野の幕開けになればと思います。また次回の渡航では、クラウドファンディングを通じて皆さまからのご支援で購入しましたガス滅菌器の運用を開始予定です。

私たちの活動が順調に進んでおり、その結果、助成金もいただけることになったのは、ご支援いただいている皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。これからもザンビア医療関係者たちと協力してザンビアの医療の発展を目指しますので、応援よろしくお願いいたします。

徳島発！

TICO 活動報告会 @ 東京

日時：2019年1月27日(土) / 場所：JICA 地球ひろば(市ヶ谷)

ザンビアでの心臓手術を始めたきっかけは？
カンボジアの救急医療支援は？
どんな人が関わっている？どんな背景で、何が課題で、現状は？
紙面やSNSでは伝えきれない情報がいっぱい！
支えてくださる全国の皆様に、可能な限り直接報告したいと考え、東京での講演会を企画しました。
TICO 会員以外の方も、単に関心があるという方も参加歓迎です。

講演後は、懇親会も予定しています。懇親会参加ご希望の方は、
1月22日迄に右記のメールにご連絡ください。

「命を救う人を育てる」カンボジアの救急医療事業

時 間：14:00～14:50

報告者：新田恭子（カンボジアプロジェクトマネージャー）

ザンビア人医師とともに～心臓血管外科チームの挑戦～

時 間：15:00～16:30

報告者：松村武史（心臓血管外科医）

【報告会参加費】 無 料 【お問合せ先】 E-mail: info@tico.or.jp

カンボジア救急医療処置技術普及事業



2018年11月、カンボジアの首都プノンペンで開催された学会で、これまでスバイリエン州で実施してきた救急医療分野に於ける人材育成事業について大久保医師が発表しました。

カンボジアの救急医療事業では、初年度は技術指導を実施しつつ全体の状況や課題を観察。翌年度に研修受講者から優秀な人材を選定し、3年目にインストラクターとして育成するために日本での研修を行いました。研修の企画・実施者として、医療技術の向上に併せて学べるよう研修した成果として、3年間のJICA事業が終了した後、インストラクター4名が自主的に州内で研修を企画・実施していることが挙げられます。

学会での発表は、カンボジアの救急医療関係者に成功事例として共有することがひとつの目的ですが、もうひとつは今後の事業展開のために関係者らと協力関係を構築することが目的でした。現在、カンボジアでは麻酔科学会の中に救急医療学部会がある形ですが、救急医療分野のニーズの高まりから、独立した学会として認可申請中です。カンボジア全土の救急関連のレベル向上のためには、こうした学会との連携は重要となります。

カンボジアの人たちが自ら次なる指導者を育て、技術向上していける仕組みづくりを継続したいと考えています。

引き続き、ご支援をお願いいたします。

S T U D Y T O U R

TICO YOUTH カンボジア・スタディーツアー



TICO ユース 2 名が参加し、2018 年 9 月 10 日～20 日の 10 日間、カンボジアに行ってきました！

徳島大学 2 年 正司 亜紀子

TICO YOUTH として TICO の活動を実際に現地で見ると、カンボジアの現状や課題を知ることが目的に参加した。10 日間の滞在の中で、多くのことを経験し、吸収した。その中で、特に心に残っている 2 つを取り上げようと思う。

1 つ目は、3 日目に訪れたスバイリエン病院の視察である。そこに青年海外協力隊として派遣された末廣隊員の説明を受けながら、病院内を見学させてもらった。スバイリエン病院は、日本の支援で建てられた新しい建物と昔から使用している建物がある。日本の支援で建てられた新しい建物は、とても整理されていて、あまり日本の病院と変わらないように見えた。昔から使っている建物では、使用済みのガーゼが落ちていた。末廣さんによると、看護師さんさえも、汚いという認識はあるが、自分から拾おうとしないそうだ。末廣さんは、「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の



現地のカウンターパートの方と
左端：正司さん、右端：吉崎さん

5S活動をスパイリエン病院で行っている。カンボジアの病院では、基本的な、整理整頓がまだまだ徹底できておらず、医療器具や薬類があちこちに置いて、混乱の原因を作っている。5Sが徹底されると、治療の効率化につながるの、この活動はすごく意味あるものだと感じた。

2つ目は、バットンバンで行われた救急医療トレーニングである。TICOの渡部医師がバットンバン州保健局で、救急の外傷患者についての講義と実習を行なった。受講した医師たちは、メモを取ったり、動画を撮ったりして、真剣な眼差しで聞いていた。午後からの実習では、講義で学んだことを、実際に模型を利用して医師たちに実践してもらった。ある程度できているが、重病の患者さんを雑に扱ったりしていて、渡部先生に指摘されていた。バットンバンは第2の都市であるので、多くの患者さんが集まる。しっかり、技術を教え、バットンバンから地方にその技術を広めてほしい。

今回のスタディーツアーを通して、テレビやネットの情報では知ることができない部分もたくさん知れた。この経験を生かして、私たちTICO YOUTHは何ができるのかを話し合って活動していきたい。

最後に、このスタディーツアーに関わってくださったTICOの新田さんをはじめとする関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

徳島大学 2年 吉崎 桃佳

“国際ボランティア学生団体TICO YOUTH”として活動していますが、私は海外に行ったことがなかったので、現地を自分の目で見たいという思いから参加することに決めました。

スタディーツアーでは、多くのことが学べました。カンボジアは、途上国ということもありよく支援の対象になっているイメージで、貧しい国なのかなと思っていましたが、行ってみると、都市部ではすごく栄えていて、日本とほぼ変わらないように感じました。高い建物があり道路も舗装されていて、イメージが覆されました。しかし一方では、地方は整備されていない道路があったり、観光地などには物乞いがいたり、格差があることを感じました。また、児童労働があることも知りました。観光地を歩いていると、小さい子どもがキラキラした目で物を売ろうと寄ってきます。話で少し聞いたことはあっても実際に目にするのは初めてだったので、衝撃でした。しかし、買うとまた児童労働が続くので、買わないことが大切だということを学びました。子どもたちが物を売る合間に、英語の勉強をしているところを目にしました。やっぱり子どもたちは勉強したいと思っているのだと感じ、少しづつわかるのと同時に、子どもの権利は守られるべきだと感じました。

青年海外協力隊として活動している方からのお話を聞いたのも、すごく貴重な経験でした。最初はアウェーで大変だったそうですが、今では誰とも仲良く話していて常に笑顔で、素敵な方だなと思いました。

また、虐殺博物館やキリングフィールドの見学も、たくさんの学びがありました。30年前という決して遠くない昔に、実際に起こった現実を知り、見るもの聞くもの全てがリアルで言葉を失いました。たとえそのときそれが悪いこととは思っていなかったとはいえ、同じ人間が人間にできることではないと思いました。向き合うのはすごくつらかったですが、目を背けてはいけない現実を見ることができました。この経験を忘れず、次の世代につなげていくことが大切だと思いました。

TICO YOUTHのメンバーとしても私個人としても、すごく学びが多いツアーでした。この経験を大切に、次の活動につなげていきたいです。



スパイリエン病院で



アンコールワット
遺跡群



女性自立支援団体・職業訓練センター

TICO YOUTH 徳島大学祭に出店しました



メンバー募集中!

ケア(CARE)の心で支援を！

TICO 理事 近森 憲助



ここに示した2枚の写真のうちで、左側の写真だけをみて、これがアフリカであることがわかる人が何人いるだろうか。2枚の写真ともに、2015年頃にザンビアで私が撮影したものである。左側の写真は、ザンビアの首都であるルサカ市内のショッピング・モール、右側は、TICOが母子保健事業で建てたモンボシのヘルスポスト（地域保健や医療の拠点である。ただし、医師はおらず、看護師・助産師及び地域保健ボランティアが活動を担っている）である。モンボシは、ルサカから車でわずか二時間あまりのところにあるが、このように風景は一変する。

2枚の写真に示されている都市と農村の違いは、何も風景だけに限ったことではない。病院へ行くことや教育を受けること、などなど、健康で希望をもって毎日を過ごすために必要なこと、その状況が、都市部と農村部で大きく違っている。難産に苦しんでいる妊婦が、ヘルスポストでは対応が難しいため30キロ近く離れた医師のいる病院に牛車に乗せられて搬送されていった光景を私は今でも忘れることはできない。

このような格差は、グローバルなレベルから、ここで紹介したような地域のレベルまで、様々なレベルで見られることであり、さらに、年々拡がりつつあるといわれている。TICOは、これまで、モンボシで母子保健事業を中心に、都市と地方という国内の地域格差を少しでも縮めようと努力してきた。現在では、日本とザンビアで心臓手術についての格差を埋めようと努力している。

では、このような格差を縮めようとする努力を支えているのは、どのような考え方あるいは思いなのだろうか。それは、「ケア(CARE)の心」なのではないか、と私は思う。「持続可能な開発のための教育(ESD)」の研究仲間である南アフリカのロブ・オドノヒュー(Rob O'Donoghue)氏の研究グループは、ESD-CAREという考え方を提案している。ここでい

うCAREとは、他者への「気遣い(Concern)」、他者の「ニーズへの細かな気配り(Attentive)」、すべてのものに「敬意をはらうこと(Respect)」そして共通の善きこと(共通善)のために「働くこと・かかわること(Engagement)」という、ESD-CAREを支える4つの柱の頭文字を、いわゆる「ケア」を意識しながら組み合わせたものである。まさに、先に示した「ケア(CARE)の心」とは、気遣い、気配り、敬意により共通善を目指す行動・かかわることの4つ柱に支えられるものであろう。

心臓の手術を受けたくても受けられないザンビアの子どもたちへの気遣いとそのニーズへの気配りから、子どもたち一人ひとりの命の重みに敬意を払いながら、救うことのできる命を救うという共通善のためにTICOは働いている。このことが、日本とザンビアの間の医療格差を縮めることにつながっている。

私は、教育の分野で、ここ10年ほどモンボシの学校とかかわってきた。現在は、モンボシのンコンジェ小学校が取り組んでいる学習環境整備の活動を支援している。最近「教員政策と国際協力 未来を拓く教育をすべての子どもに」という本が出版された(明石書店 2018年11月15日発刊)。私も著者の一人として加わっているが、編著者の一人である興津妙子氏(大妻女子大学准教授)は、途上国の教育について考えるときは、「途上国の教員を取り巻くリアリティへの認識」さらには「教師たち自身の意味世界から、その教育行為を分析する」ことの重要性を指摘している(同書、序章)。このことは、ESD-CAREの考え方からすれば、「ニーズへの細やかな気配り」と「すべてのものに対する敬意」につながるものである。これまでも、そうであったと思うが、これからも「恩恵の付与」ではなく、気遣い、気配り、そして敬意をもって共通善のための支援が続けられることを期待したい。

バザールでTICO支援

鳴門高校文化祭

生徒らがフェアトレード商品販売

「人や環境に配慮した」地球規模の視点で行動する力を身につけることを目的に、消費者教育の一環として7月に開催された家庭クラブの生徒約30人対象の講習会で理事新田が講師を務めました。

それがきっかけとなり、その後の9月の文化祭で早速、フェアトレード商品を販売してくれました。

学びそしてすぐに実践へ！地域のNGOとしても、その様なきっかけになったことはとても嬉しいです。皆さん、ありがとうございます！



香川県でもチャリティーバザー開催！

コミュニティーセンターのふれあいまつりに出店して、収益金をTICOに寄付してくれました。

地域のフリマやお祭りなどに出品、レストランの食事にほんの少し寄付料金をプラスしてのチャリティーディナーなど楽しく協力出来る事たくさんあります。あなたの企画でTICOを応援してください方、募集しています！

ご支援ありがとうございます

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。会費納入、ご寄付下さった方々です。(順不同、敬称略)

■会費納入者(2018年6月1日～9月30日 Face to Face52 未掲載者および2018年10月1日～11月30日)

峰尾武、渡部豪・あかり、中谷加奈子、松田恵美子、篠原弘子、篠原幸隆、久保真一・恵子、神園素己、大塚和子、大多和通夫、池見真由、福井千陽、和田快、工藤瑠沙香、柳崎義美、新野和枝、鈴木千佳、廣瀬文代、鈴木薫、福土庸二、福土美幸、福井照実、

福井康雄、浮森和美、地造津根子、香西邦明、古川久美子、吉田修・益子、吉見千代、彦坂知美、吉田純、峯裕恵、船津まさえ、中村純子、中島久恵、寺田由紀、山岡智互、田淵幸男、田淵規子、松島拓、平岡仁美

■寄付者(2018年10月1日～11月30日)

佐藤佳孝、船津まさえ、藤井節子、増田愛、菊屋満子、吉田修、日浅芳一、北岡豊永、山崎恵子、K's Pet Clinic、コジママサヤス、副島光江、中野恵、佐藤佳孝、橋本伸子、鳴門高校、TICO ユース、新田恭子

TICOの活動を応援してください！

*TICOの会員

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICO ニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費	賛助会員	正会員
	個人 12,000 円 学生 6,000 円 団体 15,000 円	12,000 円 ※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。
ご入会方法	年会費を郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお支払い下さい。その際、ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。	
その他	口座番号	01640-6-37649
	加入者名	TICO
ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。		

*ご寄付

皆様からのご寄付は、支援活動、団体の運営を継続するための大きな支えです。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替	口座番号 加入者名	01640-6-37649 TICO
銀行振込	口座番号 支店名 口座種類 口座番号 口座名義	楽天銀行 第一営業支店(支店番号251) 普通 7657541 特定非営利活動法人TICO ※カナ入力の場合は、(トクビ) ティコ
クレジットカード	ホームページをご覧ください。	
募金箱	さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。	
インターネット	TICO ウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこから買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。	
書き損じハガキ	ご自宅に年賀状の書き損じ、余り等ございましたら、是非事務局までお送りください。	



特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271 (平日 9:30～18:30)

メール：info@tico.or.jp

ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq

ブログ：blog.goo.ne.jp/tico_blog

TICO

